

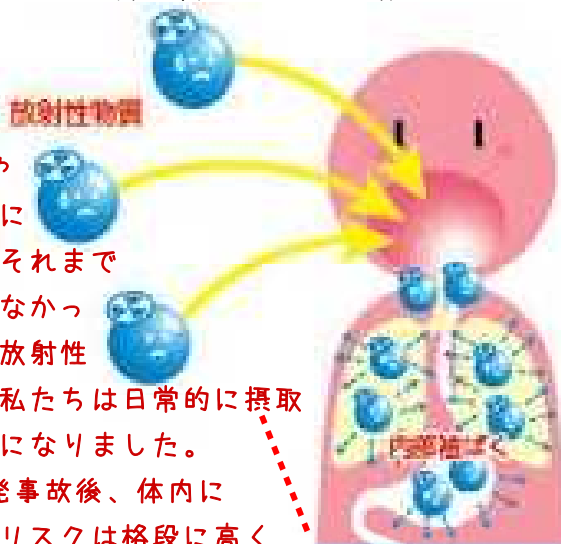
2011年3月に起きた福島第一原発事故は収束せず、放射能汚染は今も静かに広がっています。事故から30年以上たったチェルノブイリからは深刻な健康被害が報告されています。そのほとんどは食べ物からの内部被ばくによるものであると言われています。



核実験や原発事故によって、それまでこの世になかった人工の放射性物質を、私たちは日常的に摂取するようになりました。

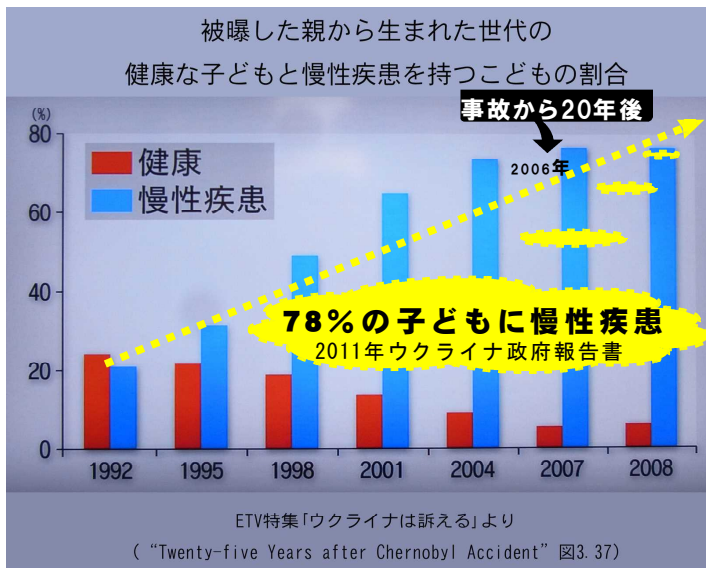
福島原発事故後、体内に取り込むリスクは格段に高くなったにもかかわらず、国が安全という基準値は事故前の摂取量とは桁違いです。

「年間100ミリシーベルトでも大丈夫」、「1ミリシーベルトでも将来に被害」など放射能の健康影響には科学者の間でも様々な意見があります。確かな情報を読み取り、自ら判断する力が求められています。



単位	事故前 (H20年度) の食品放射線量*	厚生労働省 H24年度基準値
上水	Bq/L 0.00004	10 25万倍
汚染は12都県にわたり東京都葛飾区で0.0073ベクレル (2016年6月)		
米	Bq/kg 0.012	100 8,300倍
根菜	Bq/kg 0.008	100 12,500倍
葉菜	Bq/kg 0.016	100 6,300倍
牛乳	Bq/L 0.012	50 4,200倍
魚類	Bq/kg 0.091	100 1,100倍
日常食	Bq/人/日 0.019	「健康に影響ない」 ってうけど大丈夫?

\*セシウム 137 の値です。厚生労働省基準値はセシウム測定値です。  
福島原発事故前は明確な基準値がなかったので全国の食品のセシウム平均値を示した。  
出典：日本分析センター平成 20 年度事業報告書より。  
<http://www.jcac.or.jp/uploaded/attachment/57.pdf>



チェルノブイリでは事故後、年を追うごとに病気の子が増えました。線量が低くても長期間、放射線に被ばくし続けられれば、世代をまたがって健康被害が深刻になってゆく可能性を示唆しています。



因果関係は立証されていませんが、それと同じように福島の事故後にも「病気が増えた」という統計や疲れやすい、頭痛、鼻血、風邪が長引くなど体調がすぐれなくなったという報告が数多くあります。



放射能汚染は福島県だけでなく、東日本一帯に広がり、チェルノブイリより高汚染の地域にも多くの人々が暮らしています。西日本にも様々な形で放射性物質が流れ込んでいます。今でも50以上の国で日本の食品に証明書を求めたり輸入停止にしています。5.10.2017農林水産省

放出された放射能の8割は西に流れ太平洋を汚染し、米国カナダの西海岸にまで及んでいます。たった一回の原発事故でも放射能汚染は地球全体に広がります。太古、有害な放射線の危険がなくなって地球上に生命が誕生しました。人類は核兵器や原発を開発し、それらすべてを死滅させることができるだけの核物質をここ100年足らずで作りました。



子どもたちのしあわせな未来のために 核のない持続可能な世界を

せいらいあくしょん  
Save Life action

<http://save-life-action.org/>  
☎080-5325-7128 (平野)  
✉ info@save-life-action.org

